

セルリー（ハウス春どり）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
作型													
主な作業	わき芽かき	下ジ葉ベカリン処理	収穫					育苗準備	催芽処理	播種引き	第1回移植	第2回移植	定植

技術体系

栽培技術

1 作型の特徴

発芽は容易であるが不適環境条件下の栽培であるため、早期抽だいや株割れ、心腐れ等生理障害も発生しやすい作型である。

ハウス春どり栽培における最大の技術ポイントは早期抽だい防止、生理障害対策、収穫後の鮮度保持等である。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

(1) 温度

冬どり参照

4 施設装備

(1) 連棟型ハウス、

(2) 2重被覆、暖房機

5 経営目標

(1) 収 量 6 ～ 7 t / 10 a

(2) 投下労働時間 550 時間 / 10 a

(3) 所 得 率 37 %

(4) 経営規模 40 a

(家族労働力2名の場合)

1 品種と特性

冬どり参照

2 育 苗

(1) 育苗床

高温下では立枯病等が発生しやすいので、床土は購入床土か消毒して使用する。また、育苗床はできるだけ温度を下げるため遮光、アブラムシ防除を兼ねて寒冷紗等で被覆する。

(2) 播種

10 a 当たりの播種量は 20 ml 程度必要で、発芽しにくいので催芽を要する。22 ℃前後の温度に1週間程度遭遇させた後播種する。育苗箱にばら播きし(45cm × 35cm × 深さ 9 cm に 1 ml)、種子が見えない程度に薄く覆土するか、不織布（寒冷紗や新聞紙でもよい）で覆う。

播種後は、乾燥させないように1日2～3回ていねいに灌水する。適温の 20 ℃では6～7日で発芽し、10日くらいで揃うので 50 ～ 60 % 発芽したら直ちに被覆物を除去する。

(3) 移植

1回目、2回目とも 100 ml 当たり堆肥 200 kg、苦土石灰 10 ～ 20 kg を目安に施用する。

イ 第1回移植

播種後 30 日頃、本葉 2 ～ 3 枚時、株間 10cm × 12cm を目安に移植する。

移植床面積は 10 a 当たり 50 m² 準備し、植え付け本数 5,500 本を基本とする。

ウ 第 2 回移植

第 1 回目の移植後、本葉 6 ～ 7 枚前後に、株間 15 × 12 ～ 15cm を目安に移植する。

移植床面積は 10 a 当たり 90 ～ 120 m²、植え付け本数 5,000 本を基本とする。

エ 灌水

活着後の灌水は 2 ～ 3 日おきに夕方行う。

オ 移植床の温度管理

夜温は 15℃ 以上を保ち、日中は 25℃ 以上にならないように管理する。

3 本圃の準備

(1) 本圃の準備

堆肥、切りワラ等の有機物を投入して十分耕起し、保水性と排水性、通気性の良い土層が深い圃場を準備することが大切である。

定植準備は遅くとも定植 1 ヶ月前までに行う。畦はなるべく高畦とし、マルチングの際は十分水分を持たせておく。

(2) 施肥

施肥量	(kg/10a)		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
基肥	20	25	20
追肥	20	—	15
全量	40	25	35

* 但し、土壌分析結果を考慮する。

4 定植

本葉 12 ～ 13 枚頃の苗を畦幅 120cm、条間 60cm、株間 38cm の 2 条植え、10 a 当たり 4,300 本を目安とする。

定植後 4 ～ 5 日間は活着を促進するため株元に十分灌水する。

5 定植後の管理

(1) 灌水

活着後は株張り（根張り）をよくするためひかえめにし、5 ～ 6 日に 1 回程度の灌水とする。節間伸

長期（定植後 50 日頃）になると吸水量が増加するので収穫 7 日前頃までは肥大促進のため 3 ～ 4 日毎に十分灌水する。

わき芽や枯葉かき後は病害が発生しないよう灌水を避ける。

(2) 追肥

草勢の状態に応じて、活着後に第 1 回目の追肥を行い、その後 10 日毎に 2 回、計 3 回追肥する。最終追肥は、収穫前 30 日までとする。

(3) わき芽と下葉除去

定植 1 カ月後に 1 回目のわき芽と病葉、枯葉の除去を行い、2 回目は定植 50 ～ 60 日後で外葉を傷めないよう、わき芽と古葉を除去する。作業は天気の良い日に行い、除去後は病害発生防止のため殺菌剤を散布する。

(4) 温度管理

活着するまでは、夜温は 10℃ 以上を確保し、日中は 28℃ と高めに管理する。活着後の日中温度は 25℃ を目安に換気し、夜温は 5℃ 以下にならないように保温する。

(5) ジベレリン処理

増収と外観上の品質を良くするために行う。効果は気温によって左右され、高温下ではジベレリンの効き方が早く敏感に、低温下では遅れてあらわれる。

処理方法は収穫前 15 ～ 20 日に 50 ～ 70ppm を 1 株当たり 5 ～ 7 CC 散布する。

但し、4 月、5 月だけは原則として行わない。

6 収穫

播種後 180 ～ 200 日程度で収穫できる。鮮度保持のため収穫直前の灌水はひかえる。老化したものは品質を低下させるので 1 株重 1.5 ～ 2 kg を目安とし適期収穫に徹する。